

八代市竜峰山周辺における樹上性哺乳類の生息状況

坂田 拓司^{1, 2)}, 安田 雅俊^{1, 3)}, 中園 敏之^{1, 4)}

¹⁾熊本野生生物研究会, ²⁾熊本市立千原台高等学校

³⁾森林総合研究所九州支所森林動物研究グループ, ⁴⁾九州自然環境研究所

Arboreal rodent fauna in Mt. Rryuuhou, Yatsushiro City, Kumamoto Prefecture, Japan

Takuji Sakata^{1, 2)}, Masatoshi Yasuda^{1, 3)}, Toshiyuki Nakazono^{1, 4)}

¹⁾Kumamoto Wildlife Society

²⁾Kumamoto Municipal Chiharadai High School

³⁾Forest Zoology Laboratory, Kyushu Research Center, Forestry and Forest Products Research Institute

⁴⁾Kyushu Natural Environment Research

はじめに

ヤマネ *Glirulus japonicus* は齧歯目ヤマネ科に属し、国の天然記念物に指定されている1属1種の日本固有種で、本州、四国、九州、隠岐島後に分布している。また、ニホンモモンガ *Pteromys momonga* は、齧歯目リス科に属する日本の固有種で、本州から四国、九州に分布している(阿部ほか 2008)。これら2種は多くの都府県でレッドデータブック(RDB)やレッドリスト(RL)に掲載されており、絶滅が危惧されている哺乳類である。2009年3月発行の「改訂・熊本県の保護上重要な野生動物植物—レッドデータブックくまもと2009—」において、ヤマネは絶滅危惧Ⅱ類(VU)に、ニホンモモンガは絶滅危惧ⅠB類(EN)にランクされている(熊本県希少野生動物植物検討委員会 2009)。

両種ともに小型の樹上生活者であり、夜行性で山地の森林に生息していることから人目に触れることが少ない。さらに、鳴き声もほとんど聞こえないので、生息情報を得にくい。熊本県では、吉倉(1969, 1977, 1988)や中園(1992, 1996)、坂田ほか(1996)によって、主に九州中央山地とその周辺における聞き取り情報や保護された個体についての報告がなされていたが、断片的な記録にとどまっていた。そこで、2005年以降、熊本県希少野生動物植物検討委員会哺乳類班におけるRDB補完調査の重点項目として、両種のさらなる生息情報の収集が取り上げられた。その結果、2005年から巣箱を架設する調査が、2009年からは巣箱と自動撮影カメラを併用した調査(以下、巣箱自動撮影法)が実施され、九州中央山地とその周辺の地域を中心に、目撃や写真撮影による情報が蓄積

されはじめた(安田 2008, 坂田ほか 2009, 坂田ほか 2011)。さらに、2009年から標高約450 mの水俣市大川でも巣箱自動撮影法によって両種が確認され(坂田ほか 2010)、低標高地であっても生息していることが確かめられている。

2010年からは、さらに標高の低い地域における両種の生息状況の追加確認を目的として、熊本県南部の八代平野に接する竜峰山周辺においても巣箱自動撮影法を用いた樹上性哺乳類の生息調査を実施したので、その結果を報告する。

本研究を行うにあたり、環境省、熊本県、八代市、氷川町、財団法人松井文庫から調査許可を得た。また、聞き取り調査や現地調査では立神峡公園管理組合、八代森林組合、古麓稲荷神社、春光寺に便宜をはかって頂いた。さらに、現地調査では県希少野生動物植物検討委員会哺乳類班の調査員や熊本野生生物研究会の会員諸氏、阿蘇清峰高校科学部員の協力を得た。ここに記して感謝申し上げる。なお、本研究は熊本県RDB補完調査の一環として実施した。また、本研究の一部は財団法人再春館「一本の木」財団から助成を受けて行った。

調査地

1 調査地

調査地は、熊本県内において標高が400 m未満で人里に近い二次林であることと、これまでにヤマネやニホンモモンガの生息が確認されている九州中央山地から伸びる山塊に含まれていることを条件に検討し、八代平野に接する竜峰山(517.2 m)の周辺部とした(図1)。竜峰山の周辺には神社仏閣が多く、人為的攪乱が周辺地域よ